



# Safety Mail

● 滋賀県警察本部交通企画課 ●

## 県内の交通事故発生状況

《令和元年11月末現在の人身事故》

### 〈高齢者の事故〉

※高齢者…65歳以上をいう



	件数	死者	傷者
本年	3,314	54	4,195
前年	3,836	34	4,902
増減	-522	+20	-707

	件数	死者	傷者
本年	1,030	26	575
前年	1,096	17	658
増減	-66	+9	-83



# 飲酒運転の根絶

## 飲酒運転は犯罪です!!



事故

何の落ち度もない人の人生を狂わせてしまう『悪質で危険な犯罪』飲酒運転。

そんな飲酒運転をした理由のアンケート結果によれば、「酒を飲んでから時間が経っていた」「事故を起こさない自信があった」「飲んだお酒の量が少ないので大丈夫だと思った」「運転していく目的地が近かった」などの回答が多く、安易な考えから飲酒運転に及んでいることがわかります。

飲酒運転を根絶するためには、飲酒運転が非常に危険な行為であることを十分理解したうえで、運転者とその周囲の人が、飲酒運転は「しない！させない！」という強い意志を持ち、みんなで協力することが大切です。



## ～飲酒運転をなくすための3つの約束～

- ★約束1★ お酒を飲んだら運転しない
- ★約束2★ 運転する人にはお酒を飲ませない
- ★約束3★ お酒を飲んだ人に運転させない

乗るなら  
飲まない!

飲んだら  
乗らない!

酒を  
勧めない!





「バレなければ大丈夫」

私はそう思って生きてきました。日常的になっていた飲酒運転。正直、事故を起こすまでは、飲酒運転の恐ろしさを全く理解していませんでした。

ある年の1月、私は仕事を終わらせ、久しぶりに会う友人らとの飲み会に参加しました。

会話は弾み、気が付けば日付が替わり、終電や終バスの時刻を過ぎていました。

店を出ると、私は当たり前のように車に乗り、友人を家まで送り届けました。後は通り慣れた道を帰るだけ、家が近くなり気も緩んでいました。抜け道である一方通行の道に入った矢先、人影らしきものを見た時には「ドン」という鈍い音が車全体を通して伝わってきました。人を撥ねてしまったことは瞬時に分かりました。正常な判断が出来ていればすぐに車を止め、人命救助に向かったでしょう。

しかし、酒に酔っていた私は「警察に捕まってしまう、会社を辞めさせられるかもしれない」という気持ちしかなく、その場から逃走してしまいました。さらに、私はその罪を逃れようと車を乗り捨て、警察に「車を盗まれた」と嘘の通報をしました。警察署に行き、車を盗まれたデタラメな経緯を話している時、警察官に「実は近くで人が死亡する事故があった」と聞かされました。その瞬間頭の中が真っ白になり、私が事故を起こした張本人であると全て白状しました。

逮捕後すぐに、家族と会社の上司が来てくれて、目に涙を浮かべながら話すのを見て、本当に大変なことをしてしまったと感じました。そして取り調べの中で、被害者の方がどんな方だったのかを聞かされる度に、人を殺してしまったという現実が重くのしかかってきました。「バレなければ大丈夫」という考えでやっていた飲酒運転。この時に初めて自分のやっていたことの恐ろしさを知り、何度も後悔しました。

私は尊い命を奪ってしまいました。さらにそれだけではなく、被害者ご遺族の方、周りの方々との時間、将来、希望をも奪い、人生を一変させてしまいました。私はこの責任を重く受けとめ、心から反省し、誠意を持った謝罪をしていこうと決意しました。

その後、私は過失運転致死、道路交通法違反の罪で、懲役2年6月の実刑判決を受けました。刑が始まったばかりの頃は、自分のことばかりを考えていました。家族や友人は私のことをどう思っているのか、社会的地位を失った私の今後の人生はどうなってしまうのか、そんなことばかりを考えて生活していました。

しかし、家族や友人は私を見捨てることなく支え、応援してくれたのです。刑務所での教育の中では、被害者の方や被害者ご遺族の方について考える機会が与えられたことで、ようやく被害者ご遺族の方の心情に目を向けることができるようになりました。その時に改めて、被害者ご遺族の方が大変な苦痛を抱えて生活していることを知り、人の命がどれだけ重いものかというのを痛感しました。

私の犯した罪は、決して許されることではありません。被害者の方の命を奪っただけではなく、被害者ご遺族の方にも一生消えることのない、深い傷を負わせてしまいました。私はこれから、感謝の気持ちを深めていき、事件に関係したすべての人に対して真摯な気持ちで謝罪し、少しずつ一生をかけて罪を償っていきます。

最後にお伝えしたいことがあります。

「バレなければ大丈夫」という気持ちを少しでも持ったことがある方、その考えは絶対に捨ててください。後になりどんなに後悔しても、時間は決して戻ってくれません。私のような加害者にならないよう、また、これ以上、尊い命が奪われることのないよう祈っています。

（一財）東京交通安全協会 「贖(あがな)いの日々」より

事業所内に掲示するなど、多くの方々にご覧いただけるようご協力ください。

TEL 077-522-1231（代表） Eメール x0022@police.pref.shiga.jp